

中国校長評価制度と機能に関する研究

李, 昱輝

<https://doi.org/10.15017/1398271>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（教育学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名・(本籍・国籍)	リ 李	イク 昱	キ 輝	(中 国)
学位の種類	博士(教育学)			
学位記番号	人環博甲第298号			
学位授与の日付	平成25年5月31日			
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 人間環境学府 教育システム専攻			
学位論文題目	中国校長評価制度と機能に関する研究			
論文調査委員	(主査) 教授	八尾坂	修	
	(副査) 教授	元兼正浩	准教授	田上 哲
		教授	増田	健太郎

論文内容の要旨

本研究の目的は、今日的中国校長評価制度と機能を、実証研究と文献研究によって明らかにしようとするものである。特に、評価制度の導入背景、実態と動向を調査・検討することで、評価制度をどのように機能しているかを考察する。評価制度と機能に関する研究として、序章に設定した4つの課題を解明するために、第1章から第4章まで考察を行った。

本研究の第1課題は、評価制度の導入背景と体制構造の考察を通じて、今日における校長評価制度と機能の形成要因と歴史的必然性を見出すことである。それに対して、第1章の検討で明らかになったこととして、形成要因を大別すると、校長専門職化、分権的教育行政体制、教員評価の制度化などが校長評価の前提条件である。具体的に見ると、建国後30年余りを経て、集権的教育行政体制と学校経営体制の下に、校長の経営権限と地方教育行政機構の積極性が弾圧された。1980年代後半から、校長専門職化・分権的教育行政体制・教員評価の制度と実践が進んでいく中、今日的校長評価体制が確立された。にもかかわらず、校長の幹部身分・職階、そして教育行政機構と校長との従属関係、査定的教員評価制度の影響が続き、行政的機構を基盤とする評価体制、及び校長職の上官である教育局側の評価者構成と相互に関連している。こうした導入背景と体制構造はこれから実証する今日の「統治型」校長評価の根源だと言ってもよい。

本研究の第2の課題は、評価内容に関する法制度と実態考察を行うことで、今日的校長評価機能を見出すことである。第2章で考察した結果、①校長評価、校長職に関する専門法令はほとんど10数年前公布されたものであり、「服従的」な評価内容を支える立場が明確である。②各地域・校種の校長を対象とする評価は校長専門法令の趣旨を踏襲し、「服従的」な評価内容を断行する。政治道徳・経費財務等「服従的」な評価内容を過度に強調することは必然と「自律的」な評価内容への関心不足を引き起し、評価内容の「服従的」な性格が目立つようになっている。③何れの地域・校種の校長が求める力量と評価内容との間、必要な資質能力に関する認識上の乖離がよく見られる。しかし、今後の評価内容を改善する方向について、校長と教育局との立場上の深刻な対立がまだ見られる。教育局は校長への監督管理、特に政治思想・経費・安全等に関する「服従的」な評価内容の徹底を狙っている一方、校長は柔軟で・多角的な「自律的」評価内容を期待している。

本研究の第3の課題は、評価活用に関する法制度と実態考察を行うことで、今日的校長評価機能を見出すことである。第3章で考察した結果、①各法制度は単に教育行政機構に人事管理の硬直な規則を与え、校長の職能成長や自己改善に導く柔軟な補佐・指導体制に関する説明が不足している。②こうした状況下、教育行政機構も校長評価を単に人事管理の一環として扱い、評価結果を人事異動・表彰制度につなげることを、第一義的な評価目的としている。つまり、校長評価を査定上の活用に焦点を当てた。③それに対して、校長は意見交換・結果開示・指導提言・研修改善等職能成長や自己改善に関する評価活用の欠陥を痛感しながら、強く改善を求めている。一方、教育局の問題意識と改善要望は校長ほど強

烈でないことが分かる。

本研究の第4の課題は、校長評価機能の基盤である評価構造とその課題、行方を見出すことである。それに対して、第4章で第1・2・3章の検討に基づき、「権威主義」対「合理主義」評価内容、「査定主義」対「能力開発主義」評価活用という二軸から、校長評価を①「統治型」、②「組合型」、③「結果型」、④「開発型」等、四つの形態に分け、「統治型」校長評価の欠陥を検討した。その上で、最新の試験的取組等も含め、校長評価機能のあり方を考察した。

以上のように、第1～4章では評価の導入背景と体制構造・評価内容・評価活用・改善動向に焦点をあてて今日における中国校長評価制度と機能を考察した。底流の基本的考え方は、校長評価は伝統の「統治型」から「結果型」・そして「開発型」への移行が求められるということである。このような観点を踏まえ、終章は校長像・評価制度・財政支援などの面から今後の改善策を提示した。

論文審査の結果の要旨

本研究は国家統治性格が強い中国における校長評価制度が実際どのように機能しているかを捉える。研究視座として、企業分野における評価活用という一軸の機能考察方法を見直し、評価内容と評価活用との二軸をもとに、制度背景・評価組織と理念の検討とともに、評価機能を全般的に考察した。特に、評価内容の分類法に関して、中国旧来の集権的政治体制や今日の自律的学校経営の特徴に従い、「権威主義」・「合理主義」という対立の評価観からその性格を捉えた。こうした分類法と実証的考察の上で、「服従的」な評価内容と査定的評価活用を特徴とする今日的校長評価制度の「統治型」機能を提示し、「結果型」・「開発型」機能の試験的取組の位置や課題を析出し、今後の評価機能の改善について提言した。今まで不透明な中国校長評価と人事を考察できるような職歴分析方法を開発することによって、校長評価と校長人事との関連性を明らかにしたところに本研究の特色がある。人事評価制度に関する研究視座の独創性、学術的論考が皆無に近い校長評価制度を実証的に明らかにした点が評価される。